

大人になる過程の中で、  
少年たちは数多くの経験を重ねます。  
喜び、悩み、怒り、悲しみ…

少年たちはそこから生まれる

感動を礎にして成長していきます。

11月3日に中央公民館で行われた

「第25回鞍手町少年の主張大会」

そこにはたくさんの

感動と勇気と思いがあふれていました。

その中から最優秀賞に選ばれた

3人の作品を紹介します。

# 今、伝えたい ことがある



審査委員長（教育長）の講評

最優秀賞3人のみなさんおめでとう。優秀賞15名のみなさんの努力を讃えます。演題は、社会問題・家族愛・希望・夢などバランスよく、内容についても鋭い観察力と豊かな表現力で、態度も落ち着いたものであり、質の高い素晴らしい大会でした。第25回少年の主張大会を顧みて、明るい未来を見たような気がします。

# 小学校 5年生の部

## 主張した子どもたち(敬称略)

- 武谷ありさ (古月小) ・この世で最も恐ろしい動物の「顔」
- 岡本真奈実 (剣南小) ・じいちゃんの死
- 吉田 光志 (室木小) ・ありがとう
- 菊池 翔太 (新延小) ・ぼくが今、思うこと
- 金川 遼祐 (西川小) ・80代目の夢
- 加藤 香穂 (剣北小) ・感謝



後列左から 加藤香穂(剣北小)・金川遼祐(西川小)・武谷ありさ(古月小)  
前列左から 岡本真奈実(剣南小)・菊池翔太(新延小)・吉田光志(室木小)  
(敬称略)

# ぼく

くの大好きなおじさんは、今年の7月に、お酒が原因で亡くなりました。おじさんは、お酒が大好きで、いつもお酒をたくさん飲んでいました。だからぼくは、「お酒の飲みすぎはだめばい。」と心配して言っていました。が、「大丈夫、大丈夫。」と言い訳しながら、飲んでいました。でも、お酒が原因の病気にかかってしまい、とうとう亡くなってしまったのです。おじさんのお母さんは、「私より先に逝くなんて。」と言いながら泣いていました。お酒がなかったら、こんなことにはならなかったのにと心が暗くなり、涙が止まりませんでした。また、お酒という言葉がとても気になりました。

最近、新聞やテレビを見てみると、お酒の話題の中でも、飲酒運転のことがよく取り上げられています。学校の中にも、「絶対だめです飲酒運転!」と書いた旗が職員室に貼ってあります。今の社会でも、お酒はいろいろと問題になっているんだなと思いました。おじさんの命を奪ったお酒は、交通事故を引き起こし、たくさんのお酒を飲んでいるのです。調べてみると、福岡県は、交通事故発生件数と飲酒運転が、全国で一番多いことがわかりました。とても残念なことです。これまでに起こった事故の中で、一番心に残っているのが、海の中道大橋で起きた3人の子どもの命が奪われた事件です。お酒を飲んだ人が運転する車から追突されて、車が海の中に落ち、子ども3人が溺れ死んでしまったのです。ぼくは、その橋を通ったことがあるので、あの橋から落ちたのかと思うと、とてもショックでした。このニュースは何度もテレビで取り上げられ、子どもたちを助けようと、お母さんが何度も、もぐったけど助けることができなかったことを伝えていました。子どもたちは、どんなに苦しかったことでしょう。「誰か助けて。」と叫んでいたにちがいないと思います。これまでぼくは、自分に未来がないと考えたことはありません。この事故で犠牲になった子どもたちは、ぼくよりも小さかったのに、その未来をいきなり奪われてしまったのです。信じられない事故でした。

ぼくのお父さんは、トラックの運転手をしています。夜中の12時ぐらいに出かけることが多く、ぼくが朝起きたときには、ほとんど家にはいません。お父さんが家でお酒を飲む姿をあまり見たことがないのですが、この前、「お父さん、なんでお酒飲まんのか。」と聞いてみました。すると、「仕事に行くのが夜中やけ、飲んだら酔いがさめんから、飲みたくても飲めん。もし俺が事故を起こしたら、相手に迷惑をかけるし、自分の家族にも悲しい思いをさせることになる。だから、毎日安全運転をしよう。」と話してくれました。ぼくは、車を運転する人たちがみんなお父さんのように考えて運転すれば、事故は起こらないような気がします。なぜ、お酒を飲んで車を運転するのかわかりません。少しぐらい飲んでも大丈夫とか思っているのでしょうか。事

## ●5年生の部 最優秀賞 ぼくが今、思うこと



きくち しょうた  
**菊池 翔太くん**  
(新延小学校)

※主張を終えて…とても緊張したけど、ハキハキみんなに伝わるように発表できたのでよかったです。



故を起こしたときのことを考えると、恐ろしくてできないだけです。事故を起こした人だけでなく、何も悪いことをしていない人も巻き込み、悲しい思いをさせることになりました。飲酒運転は、大事な人の未来を一瞬にして奪ってしまいます。「絶対だめです。飲酒運転!」

主張した子どもたち(敬称略)

- ・高齢化社会のひずみ 石田理紗子(古月小)
- ・支え合う仲間 龍田 和樹(剣南小)
- ・ネガティブな自分からポジティブな自分へ 井上 愛月(室木小)
- ・ラグビーが教えてくれること 内田 功平(新延小)
- ・今年の夏の思い出 森 提祐(西川小)
- ・空気代って知っている? 遠藤 聡(剣北小)



◎6年生の部 最優秀賞  
空気代って知っている?



えんどう さとし  
遠藤 聡くん  
(剣北小学校)

※主張を終えて…とても緊張したけど、空気の大切さについて、みんなにしっかり伝えられることができてよかった。これからも家族で空気を大切にしていきたい。

み

なさんは、空気代を払っていますか。「水道代は払っています」

空気代は忘れてる」

これは、ぼくがふと見たカレンダーに書いてあった言葉です。この言葉を見たとき、ぼくは、「あく本当だ。」と思いました。確かにぼくたちは、水道を使ったら水道代、電気を使ったら電気代を払っていますが、空気を吸っても空気代は払っていません。だからといって、空気にお金を払えばいいというわけではないと思います。では、空気代を払うとは、どういうことなのでしょう。

ぼくが考える空気代というのは、空気に感謝する、空気をキレイにするということ

す。みなさんは、空気が吸えるのが当たり前のことだと思っていないですか。水道代は払っていても空気代は忘れてる。ぼくもこの言葉を聞く前は、空気を吸えるということと当たり前だと思っていました。ぼくは、空気の大切さを忘れていました。今、ぼくたちが生きているのは、この空気があるからです。ぼくたちの生活を支えてくれるこの空気にもっと感謝していくべきです。それなのに、人間は空気の大切さに気付かず、空気を汚しています。人間が汚したものは、人間がきれいにしなければならぬと思います。環境を守るには空気に支えられて生きているぼくたちの義務だと思っています。そのた

めに、ぼくは自分にできることからやっていきます。ぼくが考えた自分にできること、それは大きくわけて二つあります。まず一つ目は、電気の無駄使いをしないということです。電気をたくさん使うと二酸化炭素の排出量が増えて、空気を汚してしまいます。二つ目は、植物を大切にすること。植物、木は、人間が出す二酸化炭素を吸って人間が吸う酸素を出してくれます。だからこそ植物を大切にすることは空気をきれいにすることにつながります。

ぼくは、空気代について、家族と話し合い、みんなでできることを取り組んでいくことに決めました。家族で決めたことは四つあります。一つ、部屋の電気はこまめに消すこと。二つ、使っていない電気製品は、コンセントを抜いたり、電源を切ること。三つ、太陽光発電を利用すること。四つ、紙の無駄使いをしないこと。

ぼくの家族は、この四つのことに取り組んでいます。一人の力は小さいかもしれませんが、一人ひとりが空気に感謝し、自分にできることは何か考え、実際に取り組んでいけば、空気は少しずつきれいになっていくと思います。

目を閉じて、今ここにある

空気を感じてみてください。「水道代は払っていても、空気代は忘れてる。」みなさんは、空気代についてどう考えますか。



後列左から 井上愛月(室木小)・龍田和樹(剣北小)・石田理紗子(古月小)  
前列左から 森 提祐(西川小)・遠藤 聡(剣北小)・内田功平(新延小)  
(敬称略)

# 中学生の部

## 主張した子どもたち (敬称略)

- 篠原 正覚 (鞍手南中1年) ・中学生になって
- 三戸 美公 (鞍手北中1年) ・私が部活動で誓ったこと
- 麻生 遥介 (鞍手南中2年) ・あたりまえと幸せ
- 伊藤 恵 (鞍手北中2年) ・「ありがとう」を伝えよう
- 中山 由衣 (鞍手南中3年) ・北方領土を訪問して
- 朝原 優 (鞍手北中3年) ・親子の絆と愛情



後列左から 篠原正覚 (鞍手南)・朝原 優 (鞍手北)・麻生遥介 (鞍手南)  
前列左から 伊藤 恵 (鞍手北)・三戸美公 (鞍手北)・中山由衣 (鞍手南)  
(敬称略)

# 跳

箱3段、二重跳び2回、逆上がり1回。恥ずかしい話ですが、これらは私の今までの最高記録です。小さいころから本を読んだり、絵を描いたりすることが好きだった私は、外で遊ぶことが少なく、運動が苦手でした。

そんな運動オンチな私が中学生になって入った部活は、テニス部です。最初は、吹奏楽部にしようかと迷ったのですが、体験入部でテニス部が楽しかったので、入部を決心しました。

こうして、私の中学校生活が始まりました。そして4月下旬、本格的に部活動が始まりました。しかし、運動が苦手の上、テニスすらやったことのない私にとって、毎日の練習はかなりハードなものに感じていました。練習といっても、球拾いをしたり、筋トレや走り込みをしたりと、基礎的なことばかりです。また、部活と勉強との両立も難しく、家に帰ると毎日タタタで、宿題をするのが精一杯でした。そして、体力のない私は、一学期の間に二度も体調を崩してしまいました。気がつくくと、毎朝天気予報を見ては、雨で部活が休みになることを期待したり、辞めてしまいたいと思ってしまう

うになりました。

しかし、そのことを家族に話すと、「自分で決めたことは最後までやり通しなさい。」と返事が返ってくるのでした。私は、その言葉に従い、もう少し頑張ってみることにしました。

私がこんな毎日を送っている中、先輩たちは、もうすぐ始まる夏季大会に向け、猛練習をしていました。私もそんな先輩の姿を見て、自然と練習に力が入りました。

それから数日がたち、いよいよ迎えた本番。私は、この日もあまり気乗りしないまま会場へ向かう車に乗り込みました。

まず、会場に着いて驚いたことは、人数の多さです。数百人という圧倒されそうな人数の中から、次の大会に進めるのは、上位3チームだけだと知り、先輩たちに勝ってほしいという気持ちがより高まりました。

それから試合は着々と進んでいき、先輩たちは3位決定戦まで勝ちあがっていきま

した。それぞれのチームがコートに入ると、審判の合図とともに手に汗にぎる一試合が始まりました。たくさん声援の中、私たちの声がかき消されないように、力いっぱい大きな声でコートの中の先輩に

エールを送り続けました。こうして、応援していくうちに、最初のモヤモヤした気持ちは消え、少しずつワクワクしてきました。

「テニスってこんなに楽しいんだ。」私は、ふいにそう思ったのです。

そして、先輩はラストポイントを決め、ゲームセット。結果、3対0の快勝で、見事3位入賞を果たしました。

試合が終わると、先輩は涙と汗でぐっしょりの顔を最高の笑顔にし、「ありがとう。みんなの声、聞えていたよ。」と私たちに言ってくれたので

す。私は、そのとき、先輩の3年分の努力を知り、胸が熱くなりました。私がたった3か月でつらいと思ったことを、

先輩は3年間毎日毎日こつこつとやり続けてきたのです。私はこのことに気づき、自分がとても恥ずかしくなりまし

た。これから先、運動オンチの私は、先輩のような笑顔にはなれないかもしれませんが、レギュラーにもなれないかもしれませんが、辛いことがあっても、強い気持ちを持って最後まで貫き通すことを自分に誓いました。そして2年後、テニス部に入ってよかったと思えるように、絶対に悔いの残らないものになりたいです。

## 私が部活動で誓ったこと

●中学生の部 最優秀賞



三戸 美公さん (鞍手北中学校1年)

※主張を終えて…文化祭などの行事が続き、あまり練習できなかったけど、今は無事に終わってホッとしています。応援に来てくれた友だちや指導をいただいた先生に感謝します。